

予算決算

委員長 杉林 憲治  
副委員長 片山 瞬次郎  
全議員所属

議案第72号 令和2年度小松市一般会計補正予算(第9号)について

救急業務高度化推進費

高度救急医療シミュレータ人形一式の整備費用です。高度救急医療シミュレータ人形とは、救急現場での傷病者の状態をリアルに表現でき、救急隊が行う処置を客観的に評価できる訓練用資器材です。市内の医療関係者より救急活動の充実強化を目的に活用してほしいと消防本部に対し100万円の寄附がありました。その寄附金を活用し、救急隊員の技術の向上を図り、救命率の向上に繋げていくものです。

高齢者等新型コロナウイルス検査助成費

インフルエンザとの同時流行の懸念や、高齢者等の感染による重症化、クラスター発生等のリスクに対応するため、重症化するリスクの高い65歳以上の高齢者や基礎疾患を有する方が、個人の希望に

より新型コロナウイルスのPCR検査や抗原定量検査を受けた場合の費用を助成するものです。国県等の動向を見極めながら、より一層の検査体制の充実を求めました。

介護・障がい者施設等感染症予防対策費

インフルエンザ流行期に備え各施設内での感染を防ぐため、介護施設や認定こども園・幼稚園、放課後児童クラブの所属職員、障がい者施設の所属職員と利用者にかかるインフルエンザ予防接種費用を事業者に助成するものです。

10月1日に遡って適用されることについて、大変行き届いた配慮であるという意見や、できれば今年度以降も継続して実施するよう検討を求める意見がありました。

中3エール給付金費

新型コロナウイルス感染症による学校の臨時休校等により、学習の遅れや来年の高校進学、就職活動に不安を持つ中学3年生が、将来への夢を描き、希望を抱くため、ふるさと納税「小松市エール協力金」を活用し、一人当たり15,000円を支給し応援するものです。

高校3年生の給付については、与党間で協議されていますが、今後も施策の推進を求める意見がありました。

新たな旅行スタイル実証費

観光庁の実証事業で、Withコロナ・Afterコロナでの新たな生活様式に沿った旅行スタイルの実証実験に要する費用です。家に居ながら小松巡りができるリモートツアーを11月上旬から開催し、お客様の声を反映したりリアルツアーを造成していくことです。

今後の観光につながるようなりもトツアー動画を作成してほしいとの意見が出されました。

こまつまるごと観光物産推進費

(仮)こまつぐるメ応援キャンペーンと題して、和菓子まつり・洋菓子まつり等、新商品開発・販売促進にかかる費用です。

新商品の開発をするだけではなく、継続した販売につながるよう求める意見が出されました。

産業競争力強化費

6次産業・地域資源活用事業補助金として、地元農産物の新たな魅力を開拓し、6次産業の新商品の開発やリニューアル、販路開拓にかかる費用とのことです。

補助金の支給に当たっては、事業目的に合った商品であるかどうか、しっかりと精査するように求める意見が出されました。

また、企業・事業者のデジタル化推進支援では事業の効率化・経営力強化のために、働き方改革支援事業補助金とリモート商談会等

支援事業補助金を新たに経営モデルチェンジ支援事業に追加し、新たなビジネススタイルに順応する支援にかかる費用とのことです。

中小・小規模事業者のニーズが高い補助メニューであることから予算額に達しても、引き続き継続した対応を求める意見が出されました。

環境王国ひとつくり支援費

安宅産魚介類の販路拡大を支援する目的で、安宅漁港で水揚げされた魚介類の加工品を製造・販売する市内事業者等を対象に施設整備導入や販路拡大に向け、インターネット販売用ホームページ作成経費等、必要経費の3/4を補助する費用とのことです。

加工品販売のターゲットや製造・販売の戦略をしっかりと持って行ってほしいとの意見が出されました。

議案第73号 令和2年度国民健康保険小松市民病院事業会計補正予算(第5号)について

資本的支出施設整備費

寄附金を活用して今年度から開設している訪問看護ステーションで利用する車両購入にかかる費用です。

このことにより、これまでの2台体制から3台体制となり、訪問診療の充実に期待するものです。

# 12月定例会

会期〈11月30日～12月23日〉

11月30日 開会

市長提出議案

予算案

条例案

その他議案

7件

8件

5件

12月4日 代表質問(2人)

8日 一般質問(7人)

9日 一般質問(6人)

10日 各常任委員会(分科会)

11日 特別委員会

16日 予算決算常任委員会

統括質疑

23日 閉会

市長提出追加議案

議員提出議案

2件

1件

※議案等の採決(P23参照)

## 予算案をチェック

市長から提案のあった予算案については、予算決算常任委員会で審査されました。(P18参照)

主な提案内容を紹介します。(P7参照)

### 令和2年度12月補正予算

一般会計	補正額	4億2,721万5千円
特別会計	補正額	6,887万6千円
企業会計	補正額	3,410万円

### 一般会計の累計

603億1,206万1千円

### 全会計の累計

1,144億8,290万9千円

## 本会議の討論

橋本議員から市長提出議案第74号、第75号及び第81号に対し反対討論がありました。



## 人事案件

人権擁護委員

やまかわ みつる 氏(下八里町)

たなか まちこ 氏(井口町)

の推薦に同意しました。

## 条例案等をチェック

市長から提案のあった条例案やその他の議案については、各常任委員会で審議されました。

(P19～21参照)

## 議員提出議案をチェック

議員から提出された意見書については、可決された意見書を内閣総理大臣をはじめ、関係機関に送付しました。

議案第12号 防災・減災、国土強靱化対策の継続・拡充を求める意見書

### 意見書ってなに？

意見書とは、地方議会の意見を国の政策に反映させるために、国会や関係行政庁に提出する文書です。

意見書には法的拘束力はありませんが、住民代表である議会の意思として尊重されます。



新型コロナウイルス感染症経済対策費



【専決補正額】 8,300万円  
 【内 容】 前回の飲食店等の「定員ハーフ」に加え、換気や店内衛生の向上に資する「グリーン作戦」の推進と、旅客関連事業者への支援金のための費用です。

体育施設整備費



【補正額】 1,960万円  
 【内 容】 スポーツ施設のLIVE配信環境整備及びスカイパークこまつ翼の給水設備復旧工事を行う費用です。

カヌー競技施設整備費



【補正額】 900万円  
 【内 容】 カヌーの聖地、木場潟において各国代表チームを迎えるウェルカムゲートを設置し、木場潟カヌー競技場のシンボルとするものです。

フローラルこまつ推進費



(イメージ図)

【補正額】 1,200万円  
 【内 容】 花のまちの拠点としてバラ園の充実を図り、5月の聖火リレーを盛り上げます。新たに応援ローズリングを設置し、オリンピック花壇のリニューアルを行う費用です。

歌舞伎のまちこまつ推進費



【補正額】 600万円  
 【内 容】 令和3年3月5日～6日にこまつ芸術劇場うららにて開催される市川海老蔵「古典への誘い」における公演共催（3回公演）ならびに来場者に「歌舞伎のまち」の魅力発信を行うための費用です。

有害鳥獣対策費



【補正額】 1,400万円  
 【内 容】 ICTを活用した監視対策機器の導入や捕獲檻の追加購入、町内会への予防対策活動への助成等に要する費用です。

選挙事務費



【補正額】 350万円  
 【内 容】 令和3年3月21日 投開票の市長選挙での投票所・開票所における感染症対策費用です。

スマートこども園等推進費



【補正額】 1,200万円  
 【内 容】 先端技術の活用が進む小学校との接続を円滑にするとともに、デジタル技術の活用で保育現場の業務効率化と働き方改革への取組を支援します。





代表質問 会派自民 灰田 昌典(はいだまさのり) 議員

一括質問

## 四期目の市政を目指す市長の意気込みは

◆コロナ禍における市税の見通しと対応について

Q 令和2年度の市税の最終見通しと来年度の見通しは。

A 今年度は当初予算160億円余に対し、現時点では約157億2,500万円となる見込み、来年度は約144億円の税収を見込んでいる。

◆北陸新幹線敦賀開業時期に関する延長論議について

Q 新幹線駅舎工事、駅東西広場整備、高架下プロムナード整備等への影響は。

A 現在予定通り工事は進んでいる。仮に新幹線開業が遅れたとしても駅下駅中の活用はしっかりと高めていくという方向で基本的に合意をしている。

Q 地元負担金への影響については極力負担増が無いよう望む。

A 以前から当市の北陸新幹線事業の負担金は16億円と申し上げてきた。今回の追加工事についても基本的にゼロだと願っており、各方面に働きかけていくとともに実現できるような力を貸してほしい。

Q 新幹線開業時期の延長論議について市長の所感を問う。

A 一日も早い開業を望んでおり、仮に延長となったとしても、開業を期待している人たちの

気持ちを大切に、これ以上の再延期が無いようにしていただきたい。

◆安宅新地区土地区画整理事業について

Q 現在の進捗状況と完成予定時期、完成後の用地活用や売却後の見通しは。

A 民有地の買収は、関係の皆様方のご協力で概ね9割程度進んでおり、最終的な事業完了は令和6年3月を予定している。完成後は、北陸の新たな臨空ゾーンとして、幅広い形での活用が可能となると考えており、国や県、各団体とも協議を進め、土地の最適利用を計画して進めていきたい。

◆今後の社会資本整備(公共事業)と観光政策について

Q 後世に残るのは社会資本整備即ち積極的な公共事業である。苦しい中といえども、歳入の確保に工夫を凝らし、必要な歳出予算は確保すべきである。

A また、「珠玉と石の文化」「北前船寄港地」の2つの日本遺産をはじめ、粟津温泉や安宅の関跡、木場潟等、市内の豊富な観光資源を生かし、今後の北陸新幹線開業を見据えた、多くの人を呼び込む観光振興のための政策を求めます。



Q これからも民間のノウハウや資金、国の制度を積極的に活用して展開していく。観光については、現在、大変幅広い形で評価を得ている。市をアピールする7つのテーマを駆使しながら、小松の魅力をさらに高めていきたい。

◆これまでの市政運営と今後について

Q 早いもので和田市長における二期目の市政運営も大詰めを迎えている。これまでの市政運営において実に数多くの取組や成果があるが、その中で最も印象深いものは何か。

A 教育投資が市政最大の使命であり、公立小松大学の設立に至った。駅周辺を学びのゾーンとして、さらにその成長を伸ばしていきたい。また、この12年間で市民の皆様が自分の住むまちに自信と誇りを持っていただけたようになったと思う。

Q 四期目の市政を目指す市長の意気込みは。

A 再度市民の皆様方の信任を得ることが出来るならば、再び一日一日、お一人お一人のために心を込めて全力でその職責を全うしたいと思っている。